

第三次国立市子ども総合計画重点取組みの実施評価

重点的取組み名	所管課	総合評価
「主人公は子ども」と捉えた児童館事業の強化推進	児童青少年課	C

	取組み内容	評価
1.	親子連れや子育てグループへの施設開放の推進(地域子育て支援拠点事業)	C
2.	児童館等における育児相談などの推進	B
3	児童館における子どもからの相談体制の整備と、地域で孤立する子どもへの学習支援等の実施	C
4	子どもの意見表明・参加の仕組みづくりの推進	B
5	体験活動などによるボランティアリーダーの育成	C

令和 6 年度までの実績または取組の現状

1. 親子連れや子育てグループへの施設開放

親子連れや子育てグループへの施設開放として、市内 7 か所の学童保育所では週に 1 回乳幼児とその保護者が遊ぶことができる「カンガルー広場」を展開してきた。

児童館ではその取組みと同様に 2 歳以上の幼児と保護者を対象にした「おはようコケッコー」を実施しているところである。

市内 3 か所の児童館で令和 5 年度の利用組数は 916 組であった。

2. 児童館等における育児相談などの推進

新型コロナウイルス感染症流行時は自粛傾向で家庭にこもりがちな家庭も多く、来館した際に安心して過ごし、気軽に話ができるような対応を心掛けた。

子育てグループ向け事業の中では、保護者同士のつながりができる場にもなっており、横のつながりの形成に寄与している。

子ども家庭支援センター等、関係機関とのつながりを構築しており、相談内容に応じて連携できる体制を整えている。

3. 児童館における子どもからの相談体制の整備と、地域で孤立する子どもへの学習支援等の実施

児童館は子どもが自発的に来館し大人と触れ合える施設であり職員と子どもが直接向き合える利点がある。家庭でも学校でもない第三の居場所の大人として子ども自身から相談があった場合、情報共有等を行えるように様式等の整備を行っている。

なお、学習支援については、類似の事業があることから実施には至っていない。

4. 子どもの意見表明・参加の仕組みづくりの推進

事業企画等への参画、各児童館の運営への参画等で意見表明ができるよう、キッズリーダーの育成等、工夫を凝らしている。また、館外の公園やほうかごキッズ等にも出向き、児童館をあまり利用しない児童に関しても、ニーズを探っている。

5. コロナ禍において、中高生の利用が非常に少なくなっている。そのため、「ボランティアリーダーの育成」の土壌は無くなってしまっている。しかし、主に小学生に向けてではあるが、上記の事業企画への参画や運営の補助(お手伝い)の機会は増加しており、ここを起点に、ボランティアリーダーの育成につなげたいと考えている。

課題及び改善点

依然として中高生世代の児童館利用は限定的である。

今後の方向性

継続実施

理由

矢川プラスの開設に伴い、中高生等従前関わりを築き辛かった年齢層の利用が増加している。今後各児童館にその効果を波及させていきたい。